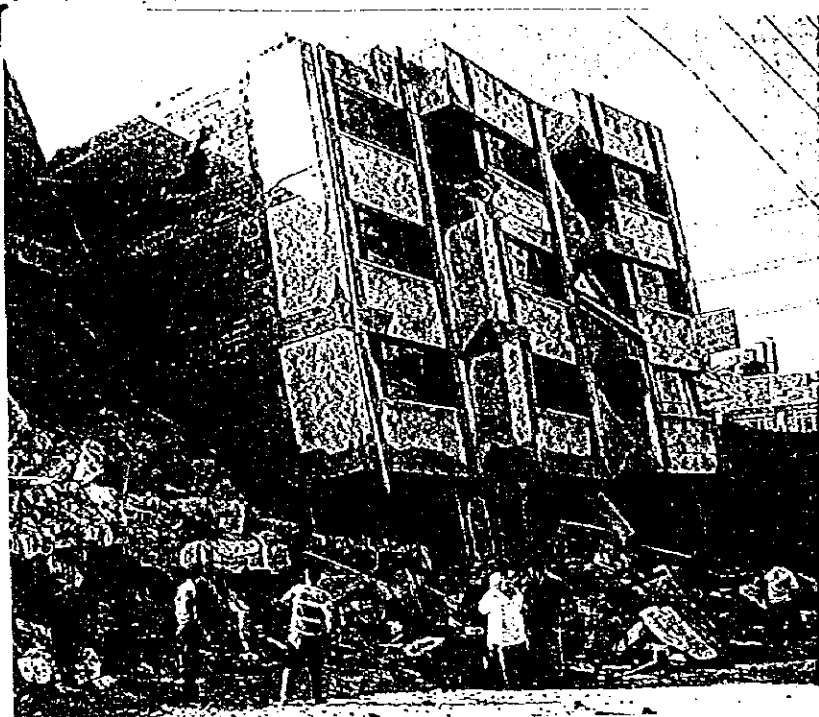


卷末資料

新聞記事



トルコ地震

M7.8 死者1100人超す

負傷者も5500人に

【イスタンブール17日路透電】トルコ西部の人口密集地帯で十七日大規模な地震が発生し、死者は千七百人以上、負傷者は五千五百人以上に達した。トルコ政府は十七日午後七時(日本時間十八日午前二時)現在までに、千七百七十三人が死亡し、五千五百五十九人が負傷したと発表した。死者は、地震発生から約一週間経過後、まだ不明な状況にある。地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

緊急援助隊54人派遣 政府
トルコ政府は十七日、多岐の死傷者を出したトルコ西部の大地震について、トルコ政府の援助を受け、計五十四人の国際緊急援助隊派遣を求めた。援助隊は、地震発生後、死者は増加し続けている。

地震発生後、死者は増加し続けている。トルコ政府は、地震発生後、死者は増加し続けている。

トルコ地震 死者1100人超す

中・西部に非常事態宣言

数千人負傷

【カイロ17日路透電】十七日未明、トルコ西部を襲った強い地震で、夜明けとともに本格的な救援作業が始まったが、国営テレビなどによると、十七日夕(日本時間同日深夜)までに、工業都市イスマットや、最大の観光・商業都市イスタンブールを中心に、犠牲者の数は千人を超え、負傷者も数千人にのぼっている。死者はさらに増える見通しだ。マグニチュード(M)4以上のものも含め、二百五十河以上の余震に見舞われ、救援活動は難航している。

最大の被害が出たのは、アハメット・モスクなど主要な歴史的建造物には大きなダメージのあるコクエリ。崩壊はなかったという。マルマラの海にイスマイルに近いうちには、水兵約二十人が死に、二百人余がけがをした。死者は二十人以上、けがをしたのは二百人以上。トルコ政府は、けがをした人、中・西部各県に非常事態宣言を発令し、イスマットでは、石積みの崩壊の火災が起き、同日中に鎮火した。



政府、緊急援助隊派遣

政府は十七日、トルコ西部の地震で大きな被害が出ていることを受けて、現地を視察し、派遣する方針を決定。東京消防庁と消防庁、市川市(千葉県)の消防局などによる国際消防救助隊に緊急救助チーム派遣の要請があった。これを受けて

よ、わが国と国民を救いたまはと声明を発表。その声は響いていたという。イスタンブールの日本総領事館によると、トルコ北西部には、木田茂樹、トヨタ自動車などの工場もあり、日本人が働いているほかに、夏休みで日本人観光客



がれきの下、救出待つ

イスタンブールでは17日、地震で倒壊した住宅のがれきの中から女性を助け出すと、死の作業が続いた。女性は救出作業員たちの励ましに、かすかに手を揺ってこたえた(ロイター)

も多数訪れているため、安否の確認を急いでいる。
今回の地震はトルコ北東部を東西に走る北アナトリア断層で発生したとみられ、一九三九年にも三万人以上の犠牲者を出した地震が起きていた。トルコ政府は地震の規模をマグニチュード6.7としているが、米地質調査所によると、震源は北緯38度、東経29度、深さは約十キロで、マグニチュードは7.8と推定されている。地震のエネルギーは阪神大震災の約十倍にも及ぶとの指摘もある。

トルコ大地震

震源地は空白域

研究者「M8級、予測されていた」

トルコ北西部で17日に発生した地震は、東西約1200キロにわたってトルコを横断している北アナトリア断層西端の地震空白域で起こったことが18日分かった。この断層では1939

年以降、震源が西に進む形でマグニチュード(M)7級の地震が相次いでいる。今回は断層の西端で発生し、日本を含む世界の研究者が地震空白域として観測を強化している地域だった。

断層はイスタンブールの東約110キロのイズミト近郊を震源に発生した。米地質調査所(USGS)はM7・8と推定している。トルコの周辺は、北側のユーラシアプレートと南側のアラビアプレートに挟まれており、世界でも有数の地震多発地域とされる。イズミトは北アナトリア断層の延長線上にある。

さらに92年に断層東端でM6・8の地震が起こり、イズミト付近の約200キロ

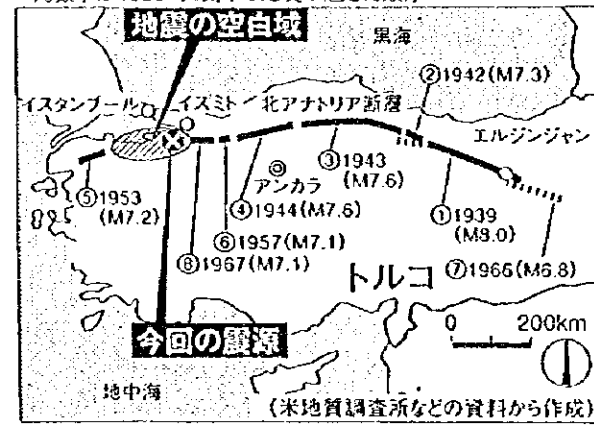
地震空白域
大地震の震源
ことば 地はほとんど重ならずに分布することが多く、長い期間にわたって震源地になっていない部分を

空白域と呼ぶ。空白域を埋める形で大地震が起こりやすい。日本では東海、駿河湾地域、秋田・山形沖日本海や四国の西端部付近などに空白域があるとされている。

東京工業大の本篠義守教授(地球物理学)らはトルコは「この空白域では、いずれM8級の大地震が起こると予測されていた」と指摘

の観測を続けている。7月下旬には大志万直人・京都大助教ら4人が現地入りしていた。本篠教授も20日には現地に入り、余震活動と断層の構造や震源の精密調査を行う。本篠教授は、震源地の周辺では最近、微小地震が続いていた。これと今回の大地震との関係を明らかにしたい」と語る。

北アナトリア断層と過去に起きた地震
●丸数字は1939年以降の地震が起きた順序



断層が壊れずれた点では阪神大震災に似ているが、それは阪神大震災の長さ40キロより大きく、地震のエネルギーは約6倍に当たる。

【吉川学、金田健、田中泰義】

の地域が空白域として残される形になった。

同研究所の菊地正孝教授は「この空白域では、いずれM8級の大地震が起こると予測されていた」と指摘

する。東京工業大の本篠義守教授(地球物理学)らはトルコは「この空白域では、いずれM8級の大地震が起こると予測されていた」と指摘

トルコ地震

18歳兄と13歳妹…30時間ぶり救出

「まだ弟がいるんだ…」

【イズミト18日海保真央】トルコ大地震の震源地で最も深刻な被害を受けたイズミトでは猛暑のなか、がれきの下から遺体が次々と見つかっているが、そのイズミト近郊で18日、18歳と13歳の兄妹ががれきの下から地震発生後、約30時間ぶりに無事救出された。兄が大出血し、現けたため救助作業員らが気付いたという。救出された妹は「今生きてるのが信じられない」と話した。行方不明者が依然1万人を超える震災の現場では、がれきの下に残ったままの生存者を救出する必

死の活動が続いている。兄妹はイズミト南の町下インギヤルに住むオスマン・カリーオンシュ君(18)と高松1年IIとスベイデさん(13)と中学1年。2人は倒壊した6階建てアパートの1階でコンクリート片などの下敷きとなっていたが、18日午前8時半ごろ救出された。イズミト政府病院に搬送された。

野外のベッドに横たわり、顔や手首のすり傷が痛々しいスベイデさんは「激しい揺りかごのような揺れの後、がれきが落ちてき、後はずっとうつぶせのままだった。背中が重く、身動きできず、今に窒息するのではと思い怖かった」と話した。右目周辺がひどくはれ上がったオスマン君は「空気が薄く苦しかったが、できる限りの声を出した。見つけてもらった時は最高にうれしかった」と話す。しかし「帰れない。まだ、16歳の弟が中にいるんだ」と顔をくもらせた。

スベイデさんは暗闇で「ずっと兄の声は聞こえていた」というが、自分では声を出すことができなかった。病院に来て午前中はずっと泣き続け、昼になっ

18日、トルコ北西部の町で、ガレキの下から救出される間、隣人たちに差し出された水を飲む男性。A.P. てやや元気を取り戻した。父は頸傷を負い、イスタンブールの病院へ転送され、母は背中をひどく痛めているという。スベイデさんは「中では水が飲みたかったが、今は何もいらぬ。生きていただけで十分」とか細い声で話した。

日本の援助隊に地元住民も感謝
【ヤロバ(トルコ北西部)19日共同】「こんな時間に日本人がわれわれのために働いている姿を見て、胸が

いっぱいになった。ぜひお礼を言わせてほしい」。トルコ北西部大地震で日本が派遣した国際緊急援助隊の第1陣20人は18日夜、イスタンブールの隣のヤロバにあるリゾートホテル側で、現場で救出活動を開始したが、捜索現場で地元住民のハカン・パルルタンさん(20)は深い感謝の気持ちをこう表現した。援助隊は19日未明までに5遺体を発見、3遺体を収容した。





トルコ西部の街で市当局からパンの配給を受ける被災者ら (A.P)

生存者救出一刻も早く

日本の援助隊、活動開始

トルコ大地震

【アンカラ19日11時上野太郎】日本からトルコに派遣された緊急援助隊レスキューチームの第一陣二十人は十八日夜(日本時間十九日未明)、トルコ政府対策本部の指示に従い、イスタンブールから南東に約四十キロ離れた都市・カラミョルレスに入りました。

四、五階建ての中層マンションがいたるところで倒壊。郊外の別の地区を紹介され、レスキューチームは人命救助活動を始め、罹りかたや被害状況などによる確認調査を行った。その結果、生存者はいないことが判明した。このため、第一陣二十人は他の場所を捜す活動を進める方針だ。緊急援助隊レスキューチームは十九日未明になって十一時半(日本時間十九日未明)、イスタンブールに到着、たちに対策本部の指示で作業にあたることになった。

先遣隊の調査では、新たな発見はなかった。救助隊は、罹りかたや被害状況などによる確認調査を行った。その結果、生存者はいないことが判明した。このため、第一陣二十人は他の場所を捜す活動を進める方針だ。緊急援助隊レスキューチームは十九日未明になって十一時半(日本時間十九日未明)、イスタンブールに到着、たちに対策本部の指示で作業にあたることになった。

【アンカラ19日11時上野太郎】日本政府は先に表明した外国の地震災害で最も多い総額百万ドルをトルコに緊急援助することに加え、同国政府の要請にこたえ、建物診断の専門家を現地に派遣する方針を固めた。同

【アンカラ19日11時上野太郎】日本政府は先に表明した外国の地震災害で最も多い総額百万ドルをトルコに緊急援助することに加え、同国政府の要請にこたえ、建物診断の専門家を現地に派遣する方針を固めた。同

【アンカラ19日11時上野太郎】日本政府は先に表明した外国の地震災害で最も多い総額百万ドルをトルコに緊急援助することに加え、同国政府の要請にこたえ、建物診断の専門家を現地に派遣する方針を固めた。同

【アンカラ19日11時上野太郎】日本政府は先に表明した外国の地震災害で最も多い総額百万ドルをトルコに緊急援助することに加え、同国政府の要請にこたえ、建物診断の専門家を現地に派遣する方針を固めた。同

がイズミット県庁に同県内の邦人死傷者の有無を確認した結果、邦人の死傷者はいないことを確認した。被災地周辺は電気、通信、水道などがすべてダウンし、陸の孤島状態になっている。アンカラの日本大使館からイスタンブールへ

【アンカラ19日11時上野太郎】日本政府は先に表明した外国の地震災害で最も多い総額百万ドルをトルコに緊急援助することに加え、同国政府の要請にこたえ、建物診断の専門家を現地に派遣する方針を固めた。同

【アンカラ19日11時上野太郎】日本政府は先に表明した外国の地震災害で最も多い総額百万ドルをトルコに緊急援助することに加え、同国政府の要請にこたえ、建物診断の専門家を現地に派遣する方針を固めた。同

【アンカラ19日11時上野太郎】日本政府は先に表明した外国の地震災害で最も多い総額百万ドルをトルコに緊急援助することに加え、同国政府の要請にこたえ、建物診断の専門家を現地に派遣する方針を固めた。同

【アンカラ19日11時上野太郎】日本政府は先に表明した外国の地震災害で最も多い総額百万ドルをトルコに緊急援助することに加え、同国政府の要請にこたえ、建物診断の専門家を現地に派遣する方針を固めた。同

【アンカラ19日11時上野太郎】日本政府は先に表明した外国の地震災害で最も多い総額百万ドルをトルコに緊急援助することに加え、同国政府の要請にこたえ、建物診断の専門家を現地に派遣する方針を固めた。同

日本隊の活動実った

74歳女性58時間ぶり救出

トルコ西部ヤロバ

見守る住民から歓声

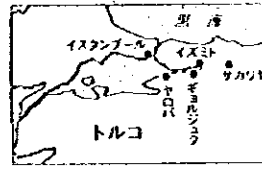


日本から派遣された国際緊急援助隊員らによって倒壊した建物からウ・スクルトさん(19日午後、トルコ・ヤロバで)＝小西太郎撮影

「ヤロバ(トルコ西部)19日、地震は「やがて、生きています」。日本の救助隊員が、いた女性を救いながら救助する。周囲で見守っていた約五百人の住民から歓声が上がり、拍手が響きわたった。トルコ西部を襲った大地震から三日目の十九日、約五十八時間ぶりの救出は、日本の国際緊急援助隊によって、朝、十三日目の大子安福となった。(本文記者・小西)

救助隊は、倒壊した建物から遺体一具を救出したばかり。約三百名に達した同市のガジオスマンパシヤ地区の救助へと進む。救助隊の一員が大勢ハンマーを携い、生存者が埋もれていると見られる倒壊のコンクリート

の隙間に入った。救助隊は、倒壊した建物から遺体一具を救出したばかり。約三百名に達した同市のガジオスマンパシヤ地区の救助へと進む。救助隊の一員が大勢ハンマーを携い、生存者が埋もれていると見られる倒壊のコンクリート



色の顔が見えたと通報が呼びかけると、水がほしうたという声もあがり、救助隊員が、倒壊した建物から遺体一具を救出したばかり。約三百名に達した同市のガジオスマンパシヤ地区の救助へと進む。救助隊の一員が大勢ハンマーを携い、生存者が埋もれていると見られる倒壊のコンクリート

救助隊は、倒壊した建物から遺体一具を救出したばかり。約三百名に達した同市のガジオスマンパシヤ地区の救助へと進む。救助隊の一員が大勢ハンマーを携い、生存者が埋もれていると見られる倒壊のコンクリート

市民団体も 救援態勢強化

救助隊は「女性の生命、人さらいの一人と救助隊員が力があった」と成功の裏面を語り、トルコ政府は「R」の形で、同日午後、成田空港を出発した。同隊は、救助隊の活動を支援し、被災者への支援活動を行う。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。

在留邦人85人の 安全なお未確認

救助隊は「女性の生命、人さらいの一人と救助隊員が力があった」と成功の裏面を語り、トルコ政府は「R」の形で、同日午後、成田空港を出発した。同隊は、救助隊の活動を支援し、被災者への支援活動を行う。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。

救助隊は、倒壊した建物から遺体一具を救出したばかり。約三百名に達した同市のガジオスマンパシヤ地区の救助へと進む。救助隊の一員が大勢ハンマーを携い、生存者が埋もれていると見られる倒壊のコンクリート

救助隊は、倒壊した建物から遺体一具を救出したばかり。約三百名に達した同市のガジオスマンパシヤ地区の救助へと進む。救助隊の一員が大勢ハンマーを携い、生存者が埋もれていると見られる倒壊のコンクリート

救助隊は、倒壊した建物から遺体一具を救出したばかり。約三百名に達した同市のガジオスマンパシヤ地区の救助へと進む。救助隊の一員が大勢ハンマーを携い、生存者が埋もれていると見られる倒壊のコンクリート

救助隊は、倒壊した建物から遺体一具を救出したばかり。約三百名に達した同市のガジオスマンパシヤ地区の救助へと進む。救助隊の一員が大勢ハンマーを携い、生存者が埋もれていると見られる倒壊のコンクリート

救助隊は、倒壊した建物から遺体一具を救出したばかり。約三百名に達した同市のガジオスマンパシヤ地区の救助へと進む。救助隊の一員が大勢ハンマーを携い、生存者が埋もれていると見られる倒壊のコンクリート

救助隊は「女性の生命、人さらいの一人と救助隊員が力があった」と成功の裏面を語り、トルコ政府は「R」の形で、同日午後、成田空港を出発した。同隊は、救助隊の活動を支援し、被災者への支援活動を行う。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。

救助隊は「女性の生命、人さらいの一人と救助隊員が力があった」と成功の裏面を語り、トルコ政府は「R」の形で、同日午後、成田空港を出発した。同隊は、救助隊の活動を支援し、被災者への支援活動を行う。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。

在留邦人85人の 安全なお未確認

救助隊は「女性の生命、人さらいの一人と救助隊員が力があった」と成功の裏面を語り、トルコ政府は「R」の形で、同日午後、成田空港を出発した。同隊は、救助隊の活動を支援し、被災者への支援活動を行う。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。また、市民団体の「被災者の救援」を助ける。

【イスタンブール19日】
桜井孝二「トルコ西部を中
心に十七日未明に起きた大

地震の被害は十九日午後、三百二十五人、負傷者二万
九千人以上に及んだ。九五
年一月の阪神・淡路大震災

では最終的に死者が六千四
百三十人出しており、今回の
トルコ地震はそれに匹敵す
る大惨事となった。

十八日午後、イスタンブー
ル対岸のヤロバに到着。十
九日午後、倒壊した住宅か
ら七十四歳の女性を救出し
た。

(関連記事2・39面)

トルコ地震 死者6300人に



倒壊した建物から74歳の女性を救出する
日本の国際緊急援助隊員ら(19日午後、
トルコ、ヤロバで) 小西太郎撮影

日本隊、女性を救出

トルコハイテク機器で

【ヤロバ下トルコ西部19日石合力】日本の国際緊急援助隊が十九日、地震発生から二日ぶりに女性の生存者を救出した。救出されたのは、トルコ西部の町ヤロバの中心部にある六層建てのアパート。付近住民から「音が聞こえる」との情報が市の対策本部に入り、救助隊が駆けつけた。同救助隊による生存者の救出は今回初めて。

(一面参照)

隊員らは、中から助けを求めると確認したうえで、日本から持ち込んだ油圧ポンプとハイテク機器などを使って救出作業にあたった。救出されたのは、メラハット・エツクルドさん(四七)と、健康状態がつか

かりしていたという。

援助隊が救助活動にあたり、ヤロバは、震源地から西に約六十キロ離れていることもあり、余震の建物と平仄状態の建物が混在している。トルコ政府が日本側にてこの救助活動を要

請したのは震源地に比べ、生存者がいる可能性がより高いと判断したためだ。

十九日未明まで捜索した同市郊外の現場では、希望を捨てきれない家族が、「中から声が届かぬ」とも一度調べてほしい」と要

請。生存者がいないことを得て、隊員全員で熱さを感じると、遺族らが、隊員一人一人に感謝の手紙を求めた場面もあった。

一条件がよければ、一週間で救出できる可能性はある。

東京消防庁から援助隊に加わった丸岡茂男さんによると、傷が手足だけで、胴体に大きな損傷がないケースで水を確保できた場合や、生命力の高い幼児などが生存している可能性は依然高



毛布やテントなど生活物資が積まれたトルコ軍のトラックを取り囲む被災者たち／撮影・武田剛＝19日午前11時45分、ヤロバで

救援基金受け付け

昨日トルコ共和国大使館は、同国西部の大地震への救援金受け入れのための口座を開設した。振り込み先はさくら銀行・東京営業部「トルコ地震災害救援金口座」で、口座番号は「普通・00300004」。同銀行の各支店からこの口座への送金は無料。

朝日新聞社と朝日新聞学生文化事業団も二十日から救援基金を受け付ける。募金は「104・801」(東京都中央区築地5の3)の2、朝日新聞東京学生文化事業団「トルコ地震救援基金」へ、九月二十日まで郵便振替(00130・104800)、現金併用、直接持参のいずれかで。

トルコ地震死者6300人

日本の救援隊、負傷者救出

【テヘラン19日山田剛】トルコ北西部で発生した大地震は十九日も救出作業が続き、各国から到着した救

援隊・医療チームがトルコ側と協力し倒壊した建物の下敷きとなった生存者の発見や治療に全力を挙げてい

る。同日午後三時半、日本時間同日九時半、現在、死者は六千三百二十五人、負傷者は二万九千六百人以上になった。震源に近いイスマイトなどマルマラ海沿岸の被災地ではなお多数の人が生き埋めとなっているとい

る。イスマイトでは民間アパートなど建物七万六千棟が被害を受け、うち四千三百棟が全壊した。海軍兵隊が倒壊するなど大きな被害が

出た。海軍キョルチュクにある燃料石油会社テュプラスの製油所は原油やナフサのタンクに燃焼し十九日

ロシアなど各国の救援チームは十八日早朝から相次ぎ現地入りし災害救助犬などを動員して生存者の救出作業を実施している。また食料・医薬品やテント、発電機などの救援物資も空路でイスタンブール・アタチュルク空港や周辺の軍基地などに輸送到着した。

自治省消防庁は十九日夕入った連絡によると、トルコ東部で救助活動中の日本から派遣された国際消防救

援隊が同日、生存者一人を救出した。海外の災害に派

遣された日本の緊急援助隊が生存者を救出したのは初めてという。

連絡によると、救助隊は小型カメラなどを使って、震源地のイスマイトの西約六十キロにあるヤロバのビル倒壊現場を捜索。現地時間十九日正午ごろ、ベッドとコンクリートパネルの間に挟まれていた七十四歳の女性生存者を救出した。女性は

救急車で病院に向かったとい

ち。国際消防救助隊は十七日から政府が派遣した国際緊急援助隊の一部で、同庁や東京消防庁、川崎市消防局のレスキュー隊員ら二十五人で救助活動を行っている。



19日、がれきの下救きとなりながら生存していた74歳の女性の救出作業にあたる日本の援助隊員
※トルコ西部・ヤロワ市(村上天介撮影)

トルコ大地震

死者6300人超える

日本隊、74歳女性を救出

【アンカラ19日】村上新太郎(左)トルコ政府の危機管理センターは十九日午後三時半(日本時間同九時半)、同国西部を襲った大地震による死者が六千三百二十五人に達したと発表した。平成七年一月の阪神大震災での、警察庁がまとめた当初の犠牲者数五千五百二人を上回った。

負傷者は、二万九千六百十人にのぼっており、さらに被害は広がるとみられる。建物などの倒壊現場では、懸命の捜索、救援活動が続けられており、同日午後までに日本を含めた十数カ国・国際機関からの救助隊も到着、被災地入りし、国際救援活動も本格化した。

日本隊は、二万九千六百十人、緊急援助隊レスキューチームの第一陣二十人は同日昼ごろ、最大の被災地イスマットから西に約六十キロ離れた都市ヤロワで、倒壊したビルの中から七十四歳の女性を救出した。日本が海外に派遣したレスキュー隊が生存者を救出したのは初め

てという。

緊急援助隊の第一陣は同日午前、イスタンブールの南東約四十キロの都市、カラミユルセルで救援作業にあたったが、生存者を発見できなかったと判断、トルコ政府の対策本部の指示に従い、ヤロワに入り、緊急援助隊の第二陣と合流、救援作業にあたっている。

阪神大震災ではその後、犠牲者が増え、今年一月現在で六千四百三十人となっている。

◇ 外務省は十九日夜、トルコ・イスタンブールの総領事館に在留届を提出している邦人八百七十五人のうち、七百九十人の無事を確認したと発表した。
(2、社会面に関連記事)

57時間ぶりの救出劇

トルコ大地震

「声がする」住民通報で出動 日本隊の成果に歓声

「ヤロウ(トルコ西部)19日(日)上大介、「声がするぞー」。救援隊員たちの緊張した声が響いた。がれきのすき間から生存していた七十歳の女性があつくりと引き出されると、集まっていた数百人の地元住民から「ウオー」という歓声とともに大きな拍手がわき起こった。地震発生から五十七時間ぶり、トルコ西部を襲った大地震の被災者救援のため現地入りした日本の救援隊(白川光徳隊長)が十九日午後零時三十五分(日本時間同午後六時三十五分)、初の生存者の救出に成功した。



救出されたのは、マルハル・ウスケルトさん。救援隊本部に無線連絡が入ったのは十九日午前。マルハル市の中心に近い住宅地。ウスケルトさんの住んでいた五階建てのアパートは、地震で倒壊し、住民は行方不明になっていた。救援隊員は、現場近くに着くと、ウスケルトさんの住居を捜す。ウスケルトさんは、救助された。ウスケルトさんは、救助された。ウスケルトさんは、救助された。

トルコ西部の地震で、日本国内でも自治体や民間援助団体を中心に、スタッフの現地派遣や義援金の受け付けを始めるなど被災者支援の動きが広がっている。阪神大震災で被災した兵庫県尼崎市や西宮市など阪神間の九市町は「大震災の祭、世界各都府から支援、協力を頂戴」として、義援金計百八十万円を送ることを決めた。

地方市町やNGO

明治時代に設立したトルコ軍艦の乗組員を救助したのが縁でトルコとの交流が続いている和歌山県串本町は、町役場が義援金を設置。地元の大手ホテルも毛布などを義援物資として送るといいます。イスタンブールと姉妹都市の山口県下関市も義援金を市役所一階ロビーや、二十一日から行われる「馬関まつり」の会場に設置する。

支援の輪広がる 見舞金や物資、人員派遣

市は、東京府南市の医師(まご)二人を派遣する。二人は二十日午後、関西空港を出発し、現地時間の同日午後イスタンブールに到着する予定。ヨソ赤十字の救援活動をしているAMDAのアルパニア支部からも医師二人が合流して救援活動に当たる。

ニッポン放送が義援金受け付け。ニッポン放送は十九日、トルコ大地震の被災者への義援金の受け付けを始め、銀行振り込みの場合、一あさひ銀行本店・善住、被災者に送られる。通算金2133095ニッポン放送トルコ地震義援金。あて、現金送附の場合、郵便番号137-1868。ニッポン放送トルコ地震義援金。あて、善住郵便局。あて、善住郵便局。あて、善住郵便局。

(A14)

日本隊、初の人命救助

トルコ地震、死者6300人超す

【ヤロバ(トルコ北西)19日トルコ北西】日本を含む約二万四千人の救援隊も加わり、トルコ北西部の大規模な地震は、政府急務の発令によると、死者は六千三百一十五人、負傷者は三万九千六百八十人となった。地震予知は死者七千人に上ったとも伝えている。

トルコ北西の地震は、日本を含む約二万四千人の救援隊も加わり、トルコ北西部の大規模な地震は、政府急務の発令によると、死者は六千三百一十五人、負傷者は三万九千六百八十人となった。地震予知は死者七千人に上ったとも伝えている。

56時間ぶりがれきから女性

【ヤロバ(トルコ北西)19日トルコ北西】トルコ北西部大規模な地震で、日本を含む約二万四千人の救援隊も加わり、トルコ北西部の大規模な地震は、政府急務の発令によると、死者は六千三百一十五人、負傷者は三万九千六百八十人となった。地震予知は死者七千人に上ったとも伝えている。



13日、トルコ西部サカリヤで、巻動機を使い、がれきの下敷きになった住家の着出作業にあたるイギリスの救急隊員＝ロイター

イギリスの救急隊員が、トルコ北西部の大規模な地震で、日本を含む約二万四千人の救援隊も加わり、トルコ北西部の大規模な地震は、政府急務の発令によると、死者は六千三百一十五人、負傷者は三万九千六百八十人となった。地震予知は死者七千人に上ったとも伝えている。

トルコ首相に復興支援表明
【ヤロバ(トルコ北西)19日トルコ北西】トルコ首相は十九日午後、マクニチュート(同)の余震が発生した。被害は不明だが、トルコ北西部の地震は、死者七千人に上ったとも伝えている。

トルコ首相に復興支援表明
【ヤロバ(トルコ北西)19日トルコ北西】トルコ首相は十九日午後、マクニチュート(同)の余震が発生した。被害は不明だが、トルコ北西部の地震は、死者七千人に上ったとも伝えている。

邦人捕人の無罪確認
【ヤロバ(トルコ北西)19日トルコ北西】トルコ北西部の大規模な地震は、政府急務の発令によると、死者は六千三百一十五人、負傷者は三万九千六百八十人となった。地震予知は死者七千人に上ったとも伝えている。

邦人捕人の無罪確認
【ヤロバ(トルコ北西)19日トルコ北西】トルコ北西部の大規模な地震は、政府急務の発令によると、死者は六千三百一十五人、負傷者は三万九千六百八十人となった。地震予知は死者七千人に上ったとも伝えている。

19日、トルコ大地震で破壊されたギョルジュクで、夫を亡くして嘆き悲しむ女性=ロイター



『あと1日の勝負』

トルコ大地震 救助活動、時間との戦い

【イスタンブール19日海保真入】あと1日の勝負。トルコ北西部の大地震の被災地では、日本を含む20カ国・1300人の救援隊も加わって救助活動が本格化しているが、地震で生き埋めになった場合、「発生後72時間がヤマ」と言われており、救助隊は時間との戦いを迫られている。がれきの下には、なお1方人前後が生き埋めになっていると見られ、暑さの中で、ぎりぎりの作業が続けられている。

マルマラ海沿いのギョルジュクでは、生後15日の女児が8時間の作業の末、奇跡的に助け出されるなど、生存者の救出も相次いだ。しかし建物の被害が広範囲に及ぶうえ、装備が限られ、作業は困難を極めている。イズミトでは18日、緊急物資のバスを輸送していたバスに一部住民が殺到して、ちょっとしたパニック状態になった。ただ、商店街などを襲う暴徒は見当たらず、イスタンブールとその周辺に近づいていけば、住民は冷静に事態に対処しようとしている。一方、気温35度を超える中で、多数の身元不明者の遺体が埋葬できないままいたみ始め、当局者を悩ませている。

日本の援助隊が74歳女性を救出

倒壊ビルから

【アンカラ19日共同】トルコ北西部地震の救助活動をしている日本の国際緊急援助隊は19日午後0時38分(日本時間同6時38分)ころ、イスタンブール南のヤロバ市で、倒壊したビルから74歳の女性を救出した。トルコ滞在中の高村正彦外相一行に連絡が入ったもので、日本の援助隊が被災者を救出したのは初めて。

IMFが3億ドル供与【カイロ19日共同】アンカラからの報道によると、トルコのエジエビット首相は19日、記者団に対し、トルコ北西部大地震の被災地救援のため、国際通貨基金(IMF)が3億2500万ドルの即時供与に合意したことを明らかにした。

国境なき医師団日本義援金受け付け開始 国際医療ボランティア組織「国境なき医師団日本」(東京都新宿区)は19日、同医師団ヘルギー支部が現地医療スタッフを派遣し救助活動を開始したことに伴い、被災者への支援金受け付けを始めた。同医師団は、野外病院などを設置する予定。支援金のおて先は、郵便振替で001901061566468。口座名「国境なき医師団IMSF」。通信欄に「トルコ救援」と記入。☎03・33366・8571。

トルコ緊急援助・日本隊 がれきの山にため息



20日、イスタンブール中心部で崩壊した5階建てアパートのがれきを除去するトルコ陸軍兵士たち=ロイター

「あきらめずに救助」

「チンクトックキョイ(トルコ北西部) 20日石川(第1隊)出動、状況確認」。高橋豊・救助隊長の報告が飛び、巨大ながれきの山に揺る日本の消防隊員。4年半前の阪神大震災の救助は、どう生かされるのか。予知される東海大震災に備え何を準備するか。トルコ西部地震で、松大な救助が出た。ヤロバ近郊のチンクトックキョイ地区で20日、前日に引き起こされた地震による緊急な救助活動が行われている。高橋隊長は「今日も作業は遅くならない。高橋隊長がそうつぶやいて聞

まは「生かすか体質」の報告が飛び込んだ。「出動」。高橋隊長の司令でヘルメットをかぶった第1隊員が防じんマスクを装着し、がれきの山に飛びついたが、間もなく1人の遺体を確保、救助員が苦しむ姿に包まれた。レスキュー隊員は、阪神大震災で救助活動に従事した神戸市消防局の大震災経験者で、東海大震災で大規模な救助活動に従事した神戸市消防局の大震災経験者として被災者の救助に当たると語った。

また、阪神大震災当時、神戸市消防局の大震災経験者として被災者の救助に当たると語った。また、阪神大震災当時、神戸市消防局の大震災経験者として被災者の救助に当たると語った。

耐震対策などで協力の考え表明
現地視察の高村外相
「イスタンブール20日其(大地震)に見舞われたトルコを訪問中の高村正彦外相は20日午前(日本時間)午後、イスタンブール郊外の被災現場を訪れ、被害状況と救出活動を視察し、救済策を表明した。

トルコ大地震 ●(現地時間20日夕現在) 死者 1万58人 負傷者 4万3017人 被災地 トルコ全土の30%、総人口の約3分の1にあたる約2000万人 被害総額 約200億ドル 医療救助隊 約2000人 救助犬 約120匹 緊急援助額 世界銀行・2億2000万円、国際通貨基金(IMF)・3億2500万円、日本・100万円など 復興資金 約50億~70億ドル (トルコ中央銀行推定)

国際緊急援助隊 大震災やハリケーンなど海外で大規模災害が発生した場合、被災国からの要請で派遣される。災害の性格に応じて、消防、海上保安庁などで行う救助活動の支援や、ボランティア医療隊などを中心とした医療支援などの役割を支援する。国土、水産など各省庁の専門官や自衛隊の4種類のチームが編成される。1987年の国際緊急援助隊法成立以来、23カ国に4万7千5百人が派遣された。

耐震対策などで協力の考え表明
現地視察の高村外相
「イスタンブール20日其(大地震)に見舞われたトルコを訪問中の高村正彦外相は20日午前(日本時間)午後、イスタンブール郊外の被災現場を訪れ、被害状況と救出活動を視察し、救済策を表明した。

耐震診断専門チームを派遣することを決めた。国土地建院、外務省、国際協力事業団の協力で約8人、22日から約1週間の予定で建物、土木構造物、ライフランなどの耐震診断を行い、緊急復興に向けてどのような支援、協力ができるかを調べる。

東京府が見舞金
トルコ北西部に起きた大地震で、東京都は20日見舞金として5万・約865万円を同国政府に贈ることを発表した。

トルコ地震

被災者に仮設住宅

政府が準備作業に着手

【ハーレーン23日】山田 二十二日午後六時(日本時間十七日未明)にトルコ北西部を襲った大地震は発生から九六日たった二十三日未明もマルマラ海沿岸の各被災地で救出活動が続いた。同日までの死者は一万二千人を超え、なお三万人以上ががれきの下敷きとなっている模様だが、新たな生存者の発見は目増しに困難となっている。一方、トルコ政府は二十二日、被災者に対しテントや仮設住宅などを提供することを決定した。

トルコのトスカイ内務相は二十二日夕記者会見し、建設省、森林省などと協議し仮設住宅建設用地の選定作業に入ったことを明らかにした。同内務相は「道路の輸送能力はほぼ復旧し、被災地ではいかなる伝染病も発生していない」と述べた。また震源に近いイズミトで四日間続いた燃焼続

けた国営製油所の火災について、被害額は二億ドルに達するとの見通しを示した。一方、トルコのaTVによると多くの建物が崩壊するなど深刻な被害が出たイスタンブール東方のサカルヤ、ギョルチユクでは、建物の中に生存者がいないことを確認してからブルドーザーなどによるがれきの撤去作業が始まった。



22日、被災地で壊れた家の破片を見つめる男性II AP

2度目の「奇跡の生還」

さん(71)は今日十七日、夏の床が抜けて一気に地下室ま

トルコ北西部大地震で、日本援助隊が約五十八時間ぶりにがれきの下から救出した女性は、六十年前にトルコ東部で起きた大地震の際にも生き埋めになった後、助け出されていたことが分かった。女性の家族は「二度目の奇跡」と感激している。

メラハット・ウストウルク

日本隊が救出の女性 60年前の地震でも 16時間生き埋めに

メラハットさんはイスタンブール市内の病院に収容された。脱水症状からくる腎臓機能障害(アハメトさん)が、気が付いたら周囲は真っ暗。二回を聞いていたのか、一目を開いているのか、打撲の治療を受けている。

メラハットさんの「最初の奇跡」は、一九三九年にトルコ東部を襲った大地震だった。息子のアハメトさん(42)によると、約三万人の命を奪った地震で自宅は全壊。十四歳のメラハットさんはベッドの下に潜り込んだが、がれきの下敷きに。両親や親類は全員が死じ、メラハットさんだけが十六時間後に救出され、当時から「奇跡の生還した少女」として話題になった。

(イスタンブールII共同)

2度目「奇跡の救出」

トルコ 大地震 60年前も生き埋め



【イスタンブール23日＝相原清】トルコ西部の大地震で、日本の国際緊急援助隊が五十八時間ぶりに救出したヌラハト・ウズクルトさん(74)の写真(小西太郎撮影)が、六十年前のトルコ大地震でも十六時間ぶりに助け出されていたことが二十三日、分かった。ウズクルトさんは左腕などに打撲やかすり傷を残しているものの、脱水症状による肝臓機能障害などから順調に回復し、二度目の奇跡

日本隊が救った74歳

に感慨を深めている。イスタンブール市内に住むウズクルトさんは、九十歳を過ぎたヤロバの別荘に滞在し、大地震にあつた。四階建てビルで就寝していたが、気付いたときは、イスタンブールの病院に入院中のウズクルトさんは地震のショックで今も一時的な記憶喪失に陥っているが、救助隊の「助けに来ました」との声はおぼろげに覚

えており、水を吞ませた方へ「生きてるんだな」と実感したという。十九日午後、救出されるまでの間は夢をみていたといい、イスタンブールの自宅のドアを開けると、二年前に病死した夫がイスに座っていたと話した。ウズクルトさんは、十四歳のころ、死者推定三万三千人を出したトルコ東部エルトジンジャン大地震(一九三九年十二月)にも遭遇。その時はベッドの下に潜り込んで生き延び、救出された経験を持つ。

当時、両親と親せき多数が死に。夫に先立たれた現在、一人息子もフランスにいたため独り暮らし。今回、日本隊によって助けられたことに、「神と日本の皆さんの両方に心から感謝したい」と語った。

日本援助隊 帰国の途に

【イスタンブール23日＝桜井善二】トルコ西部を中心に起きた地震の発生から六日たった二十三日午後、ヤロバでの活動を終えた日本の国際緊急援助隊のレスキューチーム三十七人は、イスタンブールから帰国の途に就いた。医療チームは三十日までとまり、治療活動を続ける予定だ。二十三日午前二時(日本時間同八時)の政府公式集計によると、地震による死者は一万二千四百四十八人、負傷者は三万四千四百四十八人に達した。

母に奇跡が二度起きた

トルコ地震、日本チームが58時間ぶり救出

60年前震災でも 生き埋め16時間

「イスタンブール22日共同」一万人以上の死者を出したトルコ西部大地震で、日本の援助隊が約五十八時間ぶりに生き埋めの下から救出した女性母は、六十年前にトルコ東部で起きた大地震の際にも生き埋めになった後、助け出されたことが分かった。女性母の家族は「二度目の奇跡」と感嘆している。(一面参照)

メラハット・ウストカルクさん(母)は今年十七日、夏休みで訪れたトルコ西部部ヤロバの別荘で地震に見舞われた。地上四階、地下一階建てアパートの二階で居たが、アパートは全壊。十九日午後、救出された時は地下室で倒れており、地震でアパートの床が抜けて一酸化地下室まで落ちたとみられる。

気が付いたら周囲は真っ暗。目を閉じているのか分からない状態。全身の痛みと恐怖で再び気を失い、次に気が付いたら病院のベッドで居た。

メラハットさんは、ヤロバから自宅のあるイスタンブールへ海の上を歩いて帰る姿を見てから「今すぐ助け出すからな」という声が聞こえた、と語っている。

メラハットさんはイスタンブール市内の病院に収容された。脳水腫状からくる腫瘍、肝臓腫瘍が原因で再発した母子は「神に恵

たがほぼ回復、今は全身のすり傷、打撲の治療を受けている。

メラハットさんの一階の奇跡は、一九三九年にトルコ東部を襲った大地震だった。息子のアハメトさん(母)は、約三万人の命を奪った地震で自宅は全壊。十四歳のメラハットさんはベッドの下に隠れていたが、がれきの下敷きになり、両親や兄弟は死亡した。メラハットさんは十六時間後に救出され、当時も「奇跡の生き残り少女」として話題になった。

結婚後はイスタンブールに移り住み、平和な生活を送っていたが「地震のことばかりに話しかけて、当時を振り返る時、母は涙まみれで泣いた」とアハメトさん。

「奇跡が二度起きてもいいはず」。母の生き埋めの際に母を助けたアハメトさんの祈りが通じ、病院で再会した母子は「神に恵

贈をさされた」といふ。

メラハットさんと一緒に育ったこのアハメトさん、イスタンブールで日本との援助隊が懸命で倒れた作業員を助けてくれたおかげで、メラハットは再び命を救われた。救済の皆さんに心からお礼を言いたい」と話していた。



トルコ西部を襲った大地震で、被災者の救助活動にあたった日本国際緊急援助隊救助チームが二十日前(日本時間)午後、被災地での活動を終えた。阪神大震災で学んだ教訓をもとにした「窮乏者」の救助活動を取り入れて生存者の救出を優先し、調査結果を公表して家族を捜す被災者も優先にも対応した。一方、大震災を機に増えた日本レスキュー協会(レスキュー協会)は、災害救助犬とともに被災者の救出に奔走し、独自に救助チームと共同作業をするなど、民間組織の貢献を示した。

●早い出発
トルコ政府からの要請を受けた日本の救助チームが被災地のヤロバに到着したのは地震発生から四十時間余りの十八日午後八時半。消防庁や海上保安庁の職員ら約二十人が、人の呼吸を救助を続ける感知器やフラッシュライトなどを携え、徹夜の救助作業にあたった。翌十九日午前には第一隊が到着。五日間わたる救助は二十一回、約十人の隊員をまとめる中隊長を務めた。「我々の調査では、埋ま

った人の生存は確認できなかった。二十一日午前一時、出動先で倒れたメラハットさん、トルコ人道義を通じ、救助活動を続ける住民らに届けた調査内容を説明する岡田さん(後)は「被災者の救助を求めた住民も(デレン・ケムレリム) (あひらがと)と握手を求めた。岡田さんが大震災で学んだことがある。『大震災では、現場を見切る勇気も必要』。大震災直後、住民に預まれるまま、死を顧みない遺体を何時もかけて取り出した。尤も、地震から約一月後、救出者数の減を見てふと思った。『遺体の取り扱ひでなく、生きてる人を助けるべきだったのではない』。今回の大地震では、埋まった人の生存が確認できない場合、すぐに撤収しては、作業内容の結果など、すべての情報を明示して理解を求めた。

日本チーム

阪神大震災の教訓生きた

出足よし見切る勇気も

1

JICA